

10/28 (土) に「人とまちづくりフォーラム」を第一部に特別養護老人ホーム「芦花ホーム」医師石飛幸三先生の「平穏死」の講演、第2部に「安心して在宅生活をおくるための条件とは」をテーマにパネルディスカッションの構成で開催しました。当日はあいにくの雨模様でしたが90名の参加がありました。



石飛先生は40年あまり外科の医師として働いていました。その頃は手を尽くしても残念ながら「死」という結果を迎えた時、無念の思いでいっぱいとなり「自分は負けたのだ…」という怒りやむなしさを感じていました。その先生が自分の人生の終わりを感してきた時に医療の持つ意味を見つめ直す意味を強く感じ、芦花ホームの常勤医に転身。看取り医療を始めてから、初めて「死」とは必ずしも敗北の結果ではなく、自然な死というものには決してマイナスイメージのものではないということを感じることができるようになったそうです。

「人は死が近づくと、木が枯れるように、何日か前から潮が引いていくような様子が見られる。あまり食べたり、飲んだりしなくなったり、眠っている時間が多くなり始める。永い眠りにつくために、本能的によけいな物を整理して、身を軽くしようと準備する。家族からは不安に思う余り『もっとカロリーを入れないと衰弱してしまいます』『もっと水分を補給してください』と言われることがよくあるが、本当に苦しませたくないのなら、本人の身体が受け付ける以上のものを無理やり摂取させないようにする。そうすると「自然死」を迎えることができる。」

「終末期の高齢者は自然で安らかな死に向かわせてあげるべき、これからも強く『平穏死』を提言していくつもり」という先生の話に共感しました。

また「介護する人は心を支える支援を大切にしてもらいたい」とも話され、芦花ホームで実際にあった看取りの場面と職員との温かい交流のエピソードには、会場のあちこちで涙ぐむ人の姿が見受けられました。



また、第2部は「安心して在宅生活を送るための条件とは」をテーマに ACT 初代理事長の石毛鉄子さんの進行で利用者家族2名、訪問

看護師、介護福祉士、ケアマネジャーが登壇し、それぞれの立場で「在宅での介護」についての話をいただきました。その話の中で、世の中にいろいろな情報がある中、その人にとって必要な情報をどのように得ることができたかで、その後の「介護」の様子が変わってくる。また、介護者が一人で抱え込まないように、その人が「どのように生きたいか」を支援できるチームを利用者、その家族、及び、医療と介護の他職種のサービス事業者が連携して「安心して在宅生活を送ることができる」環境をつくる必要があるという意見で一致しました。

今後、今まで以上に「介護についてどこに相談するか」その糸口を身近に作ることを私たち人とまちづくりに課せられた課題と言えると今回のフォーラムで強く感じました。

NPO・ACT 人とまちづくり 副理事長 小宮淳子

●3keysとは、きっかけ・きずな・きぼう



子育て支援委員会恒例の子育て支援フォーラムは、初めて「草の根市民基金・ぐらん」との共催で開催。53名の参加がありました。今年も「子どもの貧困」をテーマとし、ぐらんの助成により、いち早く学習支援などに取り組んできた認定NPO法人3keys(スリーキーズ)代表理事・森山誉恵さんを講師にお迎えしました。

当時大学生だった森山さんは所期の目的に沿い、虐待や貧困などで頼れる大人が少ない子どもたちへの①学習支援事業②子どもの権利保障推進事業(相談・総合支援)③啓発活動事業に取り組まれています。

虐待の発生数は15年間で年10万件以上増え、16年度は12万件を超えましたが、保護される数は横ばい。経済的・精神的・社会的など、貧困の要素が2つ以上重なることで起きやすく、保護された子どもたちは、衣食住と安全は確保されますが、勉強の遅れを取り戻すほどのサポートまでは望めません。しかし、自立に向けて最も求められるのが学力。そこで、東京・横浜の約20施設と連携し、年間150人ほどを個別指導。自己肯定感や学習意欲の向上につながっています。そのためのボランティア研修も実施し、リタイアした男性も活躍していますが「実はトラブルはこの世代との間で起きる。怒って終わってしまうから」と苦笑い。

月に約1万人の中高生が利用する「オンライン相談

Mex(ミークス)」には官民150の支援内容を掲載。「親きらい」「死にたい」「妊娠したかも」などと検索した場合、このサイトが表示される今日的なサービスも3keysの特長です。「虐待・孤立などには、匿名性・専門性の高い、地域を超えた支援が有効」とのことでした。

●3団体からの支援活動報告

<NPO法人アピユイ> 武内典恵さん(写真左) 多摩エリアで児童発達支援・放課後等デイサービス、保護者の会、発達相談、子ども宿題カフェを実施。どんな状態の子どもにも学びを保障し、保護者を孤立させないことがモットーです。\*ぐらん助成団体

<小平子ども食堂まるちゃんカフェ>岩本博子さん カフェ、個人宅、公民館で実施。主任児童委員や学校関係者との連携で、支援が必要な子どもにつなぐと同時に、一緒に食べることで声をかけ合える関係性が生まれることを期待しています。

<NPO法人ワーカーズ風ぐるま>織田由美子さん(右) 国分寺市の育児支援家庭訪問、ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業を受託。宿題ひろばもスタート。「こころの貧困・孤立」にならないよう、ひとり親に寄り添う支援を行っています。



インクルーシブ事業 連合事務局 稲宮須美

インフォメーション



2017年度ACT市民後見人養成 基礎講座

日時: 2018年3月3日(土) ①10:00~12:00 ②13:00~15:00  
3月17日(土) ③10:00~12:00 ④13:00~15:00

- ① 成年後見制度の概要・基礎 ② 対象者への理解と対応
- ③ 後見申し立てから後見等開始までの流れ ④ 後見人の職務・実務

受講料: 1講座3,000円 全講座受講者=9,000円(ACT会員6,000円)

会場: ACT会議室 中野区本町1-13-18大新NSビル2F

主催・問い合わせ先: NPO法人アピリティクラブたすけあい 電話: 03-5302-0393 <http://npact.org/>

◎判断力が低下しても、その人らしく暮らすお手伝いをするのが市民後見人です。市民後見人に必要な知識を身につけましょう。

第2回地域防災訓練 in 悠遊

日時: 2018年3月4日(日) 10:00~12:30

悠遊安心支援システムの一環として、防災力を強化し、地域の安心・安全に貢献することを目的に訓練を行います。参加希望者は下記までご連絡ください。

主催・問い合わせ先: 社会福祉法人悠遊

西東京市泉町3-15-28 電話: 042-424-8106(代表) FAX: 042-425-2662



昨年の訓練の様子

市民版地域福祉計画づくり@中野&にしたま

悠遊による区有地活用をきっかけに

~中野地域協議会

中野では「市民版地域福祉計画」策定に向け、9月から活動を始めています。まず、市民による計画づくりのプロセスを確認。日常的に実施しているひとこと提案などをベースに、10月には「地域包括ケア」について中野区にヒアリングも行いました。

計画づくりのきっかけとなったのは、中野区江古田の区有地活用の運営事業者に社会福祉法人悠遊が選定されたこと。小規模多機能型居宅介護や認知症グループホームに加え、24時間365日の訪問看護・介護に、東京の運動グループとして初めて中野区で参入、2019年2月に開設予定です。

地域協議会では長期方針に基づき、さらに市民のニーズに沿ったサービスを実現すべく討議を重ね、来年秋の計画策定をめざしています。

私たちが描く、まちの未来図

~にしたま(福生、羽村、瑞穂)地域協議会

私たちが住みつづきたい、暮らしやすい社会を思い描き、私たちの住むにしたまが「こんなまちだったらいいな~」、「こんなふうになれば暮らしやすいのに…」と、まちで活動するコミュニティリーダーやまちの福祉に関わっている方が集まって、まちの未来図を自由に出し合って思いを共有し、まずははじめの一步を踏み出しました。

